

弓削皇子の薨ずる時に、置始東人の作る歌

一首 并せて短歌

二〇四番

やすみしし 我が大君 高光る 日の皇子 ひさ  
かたの 天つ宮に 神ながら 神といませば そ  
こをしも あやに恐み 昼はも 日のことごと  
夜はも 夜のことごと 臥し居嘆けど 飽き足ら  
ぬかも

反歌一首

二〇五番

大君は 神にしませば 天雲の 五百重の下に  
隠りたまひぬ

また短歌一首

二〇六番

楽浪の 志賀さざれ波 しくしくに 常にと君  
が 思ほせりける